



2021. 5 No 9

はたけ便り

NPO 法人みんなのプロジェクト
福岡市早良区梅林6-23-3
Mail: hatakenoie2020@gmail.com

「こんな夜更けに・・・」

水野 英尚

2018年に映画化もされた「こんな夜更けにバナナかよ」(渡辺一史著)は、進行性筋ジストロフィーという難病を抱えた鹿野靖明氏が、多くのボランティアと共に北海道での単身生活している姿を、密着取材したノンフィクションの作品です。本作品のタイトルとなっている、真夜中に「バナナが食べたい!」と要求する鹿野氏に対して、学生ボランティアの一人が「こんな真夜中にバナナかよ」と心の中で叫んだエピソードがあります。すべてに介助が必要な鹿野氏が、相手の状況お構いなしに自らの要求を貫く姿に、否応なく対峙する学生にとって「もう、この人の言うことは何でも聞いてやろう」と受容する姿や、`ワガママ、とも取れる鹿野氏の強烈な要求に対して、関わる者たちが変化していく不思議さを語っています。

「SharedHome はたけのいえ」は、重い障がいのある青年たちの`自立、に向けた生活が始められています。最後の入居者であるY君も、生まれて初めて親元を離れての生活の中で不安になりながらも、最近はここで生活をしていこうという`決意、が感じられます。他の入居者同様に身体的に重い障がいがあり、生活の全てに介助が必要ですが、言葉で「オチャオネガイ」(お茶を下さい)、「コデル」(おしっこが出る)など、要求することができます。何より彼の強さは、その要求が叶えられるまで、たとえ言葉が聞き取れない支援者に対しても、何度も何度も諦めずに繰り返していくことです。さらに、彼の体内の腸の働きはすばらしく、毎日決まって、夜中の3時から5時にかけて2~3回します。予定時刻になると、ベッド上から「ウ〇コデル」の音が暗い部屋に響きます。そして、ポータブルトイレへ移り全てを済ませ再びベッドへ、それを2~3回繰り返します。介助するこちらは頭では分かっているのですが、身体は正直で当然`眠い、となります。そして、3回目が終わりに、ホッと安心して彼のベッド脇のマットへ横になってウトウトしかけていると、再びベッドの上から「オチャオネガイ」と小さな声が聞こえてきます。「もう少し寝かせて」と心の声と共に沈黙していると、Y君の声のボリュームが次第に大きくなり「オチャオネガイ!!」と、するとスイッチが`カチ、と入ったかのよ



うに力が出てきて起き上がることができる、そうした不思議な感覚は、きっと鹿野氏に真夜中に「バナナ食べたい！」と要求されてボランティアが体験した「不思議な感覚、と、きっと近いものではないか」と思います。相手への遠慮とか気遣いということを全く突き抜けて、自分の要求をストレートに他者に伝えること、そうして実現していく力強さ。そうした姿は、まさに「生きる力」を私たちに示しているのだと思います。そこに触れた時、介護する側・される側という「してあげている」といった関係性では分からなかったことが、実は向こう側からの力を得て動かされていくような、まさに「不思議な感覚、をしていくのだ」と思います。それは、重い障がいのある彼(女)たちの存在から示される、圧倒的な「いのちの力」に本当の意味で触れた瞬間なのではないかと思えます。



お知らせ

ご案内しておりました、映画上映会&シンポジウム「いのちの自立、で暮らす～新たな住まい方へのチャレンジ～」(2021年7月10日)は、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止の観点から、残念ながら延期することになりました。

「SharedHome はたけのいえ」 介助者募集！！

～あなたの「お時間、少しだけないでしょうか？～

資格・内容等について知りたい方は、以下の連絡先迄お気軽にどうぞ！

連絡先:090-7921-7584(水野)